

発表タイトル	日本の情報系専門職大学院の教育に関する考察 －大学院修士課程との比較から－
発表者所属名	メディア社会文化専攻
発表者氏名	石原朗子

1. はじめに

日本では、2003年に専門職大学院が誕生した。専門職大学院は、実務家教員の配置、修士論文を課さなくてよい、教育方法の提示等、教育の点で様々な工夫が凝らされていたが、十分な拡大を見ていない。その理由の1つに、専門職大学院が修士課程とどのように違うのかが実際にははっきりしない、はっきりと認識されていないことが挙げられる。そこで本研究では修士課程との比較から専門職大学院の特徴を探る。

2. 対象領域

本研究では情報系に焦点を当てる。これは、情報系は専門職大学院と修士課程が併存し、2つの課程間に制度的な差別化がなく、違いが分かりにくく、問題が浮き彫りになる分野の1つだからである。

3. 分析枠組みと結果

本研究では、4つの側面（教育理念、教育内容、教員の育成したい能力観、学生の身に付けたい能力観）で2つの課程を比較した。その結果は、表1のとおりである。

表 1 情報系の専門職大学院と大学院修士課程の比較

	専門職大学院	大学院修士課程
教育理念 (資料分析)	社会・産業を意識 特定職種への育成に言及	学問や科学技術を意識 高度専門職業人養成への明確な言及なし
教育内容 (資料分析)	カリキュラムのバランスを重視 マネジメント系・ストラテジ系を重視	カリキュラムでは1～2領域重視が主流 テクノロジー系の基礎理論重視が主流
教員の 育成したい能力 (インタビュー)	基礎知識の重視 多対多、多の中の個人の重視（集団重視） 流れの重視・プロセス志向 今ある問題の解決能力の重視	理論・基礎学問の重視 個対多、個対個の重視（個人重視） 状況ごとの対応力の重視 課題発見を含む問題解決能力
学生の能力観・ 教授学習観 (質問紙調査)	知識事項の重視 チームに関する項目の重視 課程内の学修活動の重視	問題への対応力の重視 思考力の重視 課程外の学修活動も重視

4. 考察

以上より、専門職大学院の強みは職業教育に特化し社会や産業を重視する教育、つまりミッションの特化と、そのカリキュラムへの浸透、教員と学生の発想の共有にあり、反面、拡大しない要因として、専門職大学院に改組することで研究の要素が入らなくなることを既存の修士課程が嫌う背景があることもインタビュー結果から示された。こうしたことを踏まえ、本研究で導出された課程間の違いについて、その含意を検討する。